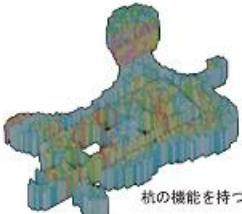


## Diagram



杭は埠頭自体の地盤沈下を緩やかにし、新たに作られた地下躯体の構造体となる。杭基礎という普段見ることのない構造体をデザインする。それは杭の持つ機能とは別の次元で身体に語りかける。地表面に現れた部分は杭としての機能はない。これを「現象」となづける。

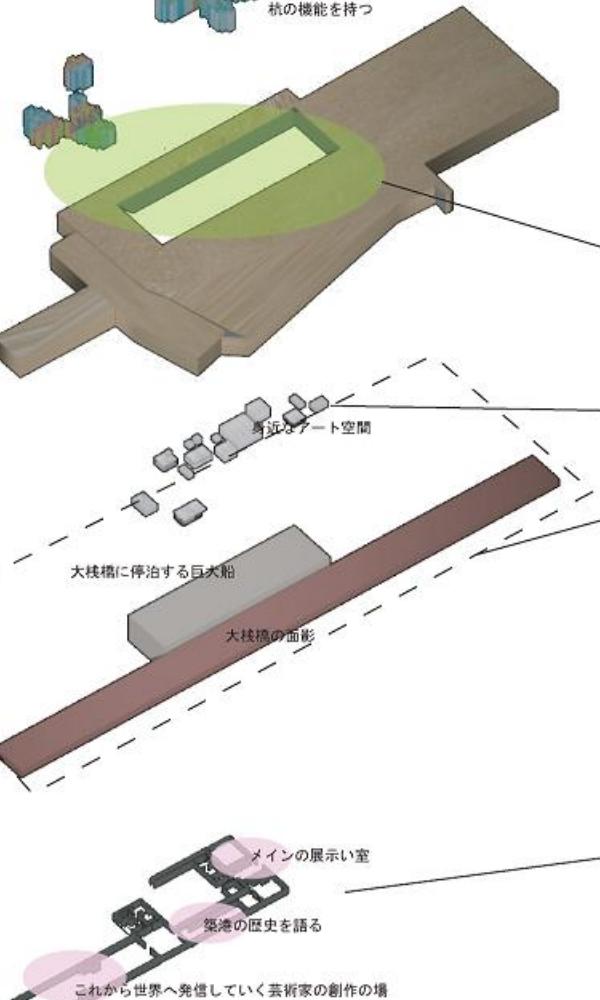
現在ある建物は倉庫としての役目を終える。この倉庫は中央突堤の最後の倉庫ということになる。それはつまり、物流拠点としての役割をこの場所が終えるということである。その敷地のあとに公園のようなミュージアムをつくる。

倉庫が立っていた敷地の周りを堀によって囲む。堀はガラスが空間を規定するよりも透明で強く空間をわかつ。

地上部にはより人々に身近なアートが展示されカフェなどの施設が配置される。

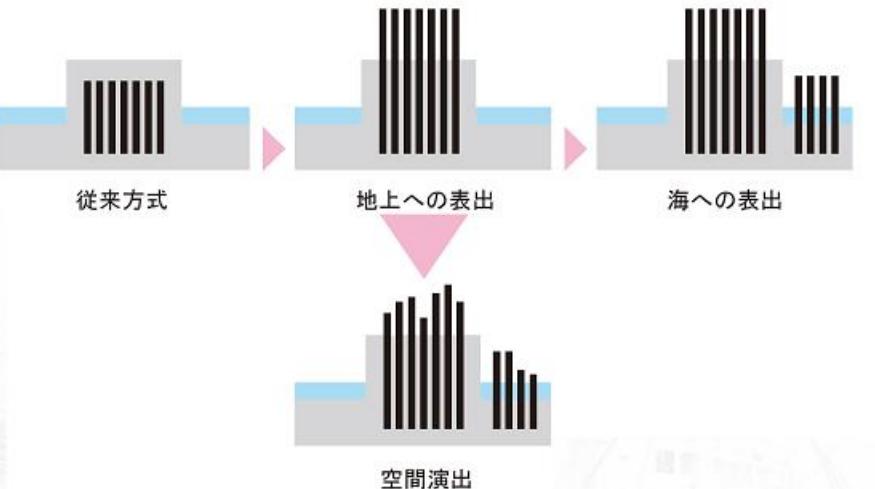
かつての大桟橋の面影を地下に埋め込む。敷地として残った倉庫の面影と重なることにより、そこには繁栄を極めた大阪の風景が埋め込まれる。

地下は若手の芸術家数名のアトリエとその作品を展示する展示室と築港の歴史を語る通路からなっている。



「現象」の配置イメージ

## Diagram: 現象



普段、杭は地下部にあり目にすることはない。その機能は建物を支えたり地盤を支えたりするものだが他の構造体に比べデザインされることはない。それは目に見えないからでその必要性がないからで、機能に特化されたものであるといえる。この杭を地上部分に表出させる。地上部分に杭としての機能ではなく現象となる。その現象は空間を演出し、風景をつくりだす。

## Museum のプログラム

このミュージアムは大阪港の歴史を語る場所となる。しかし、この場所自体が大阪の歴史を語る場所であり、教科書的に歴史を教えるような施設は合わないと思われる。つまり、従来の学術的な貴重品を展示するような博物館ではなく、新たに築港の歴史となるような場所を設計する。

築港は大阪市の財政難により頓挫してしまったが芸術家村構想によりサントリーミュージアムやCASOなどの展示施設がつくられている。またこの独特的な風景は多くのひとを惹きつけ、NPOなどによるアート活動も盛んである。そこで具体的には博物館と美術館をまぜたような、世界に羽ばたく前段階の芸術家のための場所をつくることにする。

コンペ形式で選ばれた表現者がその場所にあった作品を新たに作り展示する。「閉じ込められた海の部屋」と名づけられた大空間は一等に選ばれた人物がパフォーマンスし、作品は美術館が買い上げる。表現者の作品の制作の場と発表の場を同時に用意することにより、製作自体も展示することとする。

かつて、この場所が世界と大阪を結ぶ結節点であったように、芸術や文化で世界と繋がるような場所をつくる。またNPOと共に「現象」を使ったさまざまなワークショップをおこなう。「現象」に絵を書いたり、色を塗ったり、布を巻いたり、そういうことを行うことで人々呼び、ある種公園のような空間をつくる。

## 空間コンセプト～「うちとそと」と「内部と外部」～

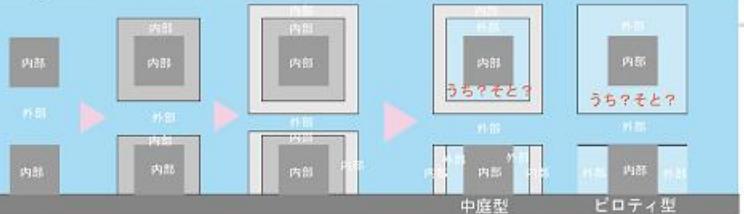
客観的空間認識：「内部、外部」

主観的空间認識：「うち、そと」

「内部、外部」を建築空間的に雨が入らない、風や光の調整ができるといった物理的、客観的な意味とする。

「うち、そと」を身体が受ける主体的感覚による意味とする。

## Diagram: 「うちとそと」と「内部と外部」



建築的内部と外部は基本的に壁と屋根面によって構成される。中庭やピロティは基本的に外部空間に属す。

中庭やピロティは外部空間であるが、「うちかそと」かは人によって感じ方が違う。

## 堀の効果



堀による空間のしきりは古くから見られ、水の都とよばれた大阪にも多くの堀があった。今回地上部の建物を堀の中につくることによってガラスよりも視線を通し、物理的にはより境界わける。

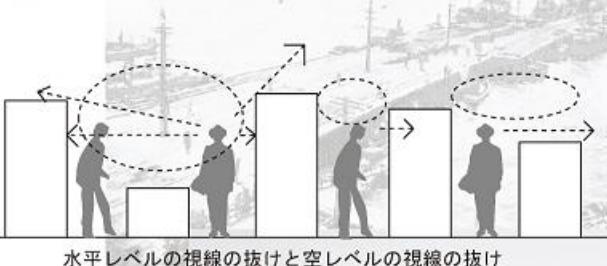
## 「うちとそと」の身体の感じ方

「うち、そと」を身体が受ける主体的感覚による意味とするとき、身体に働きかける主要な要素にスケールと視線がある。

### スケール



### 視線

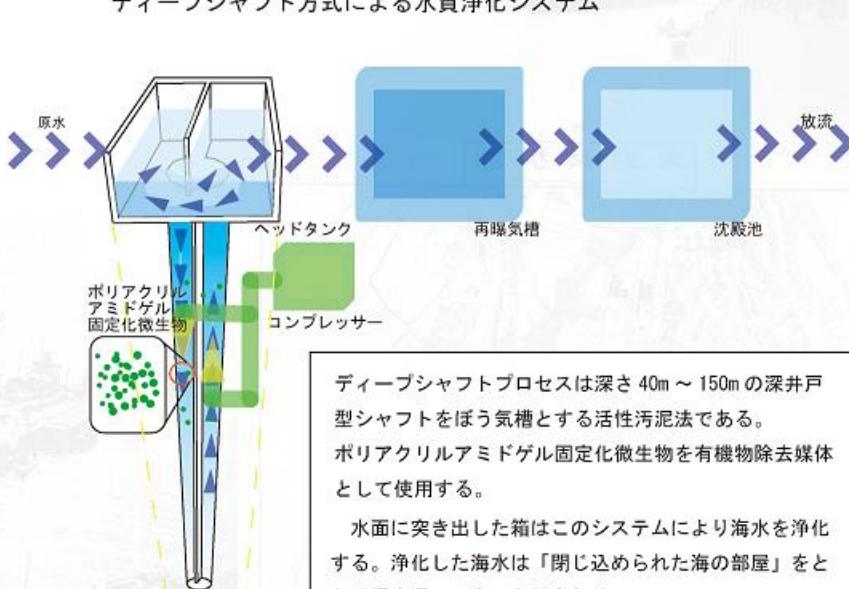
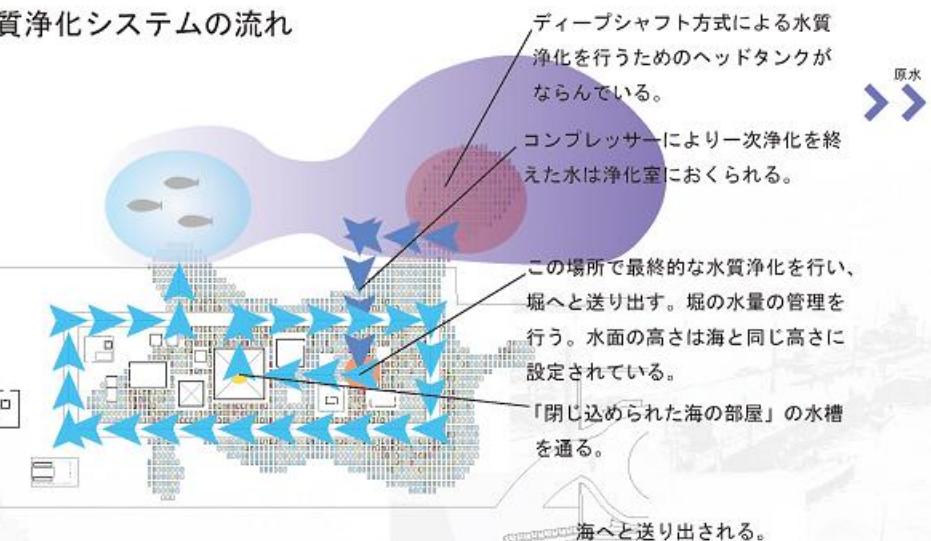


### 仕切りの高さと視覚

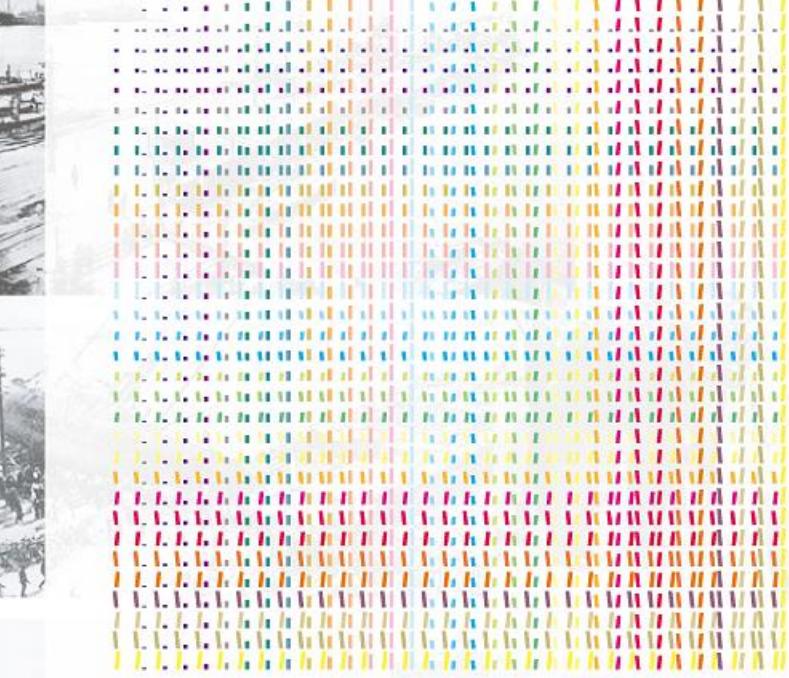
高さ(cm)	視覚
110	座ったままで見通しが利く。
120	座ったときの視点とほぼ等しく、立てて見通しが利く。
150	立ったときの視点とほぼ等しく、周りが見通せるので圧迫感が少ない。
180~	人の動きを視覚的に遮ると共に、他からの視線を意識する必要がなくプライバシーが高い
210	必要がなくプライバシーが高い

参照：第3版コンパクト建築設計資料集成

## 水質浄化システムの流れ



### 現象の隙間のパターン



### 現象の地上面への表出高さ

300 ~ 600mm

900 ~ 1500mm

1200 ~ 1800mm

1800 ~ 2400mm

2700 ~ 3300mm

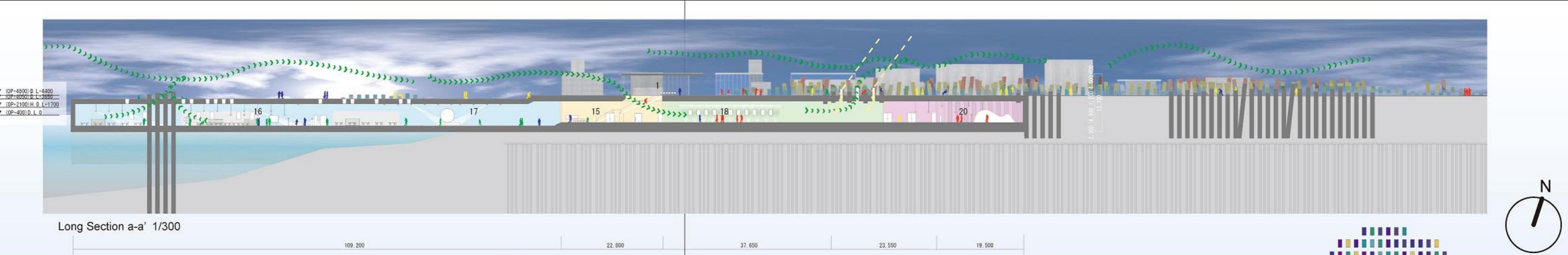
3600 ~ 4200mm

-1200 ~ -2100mm

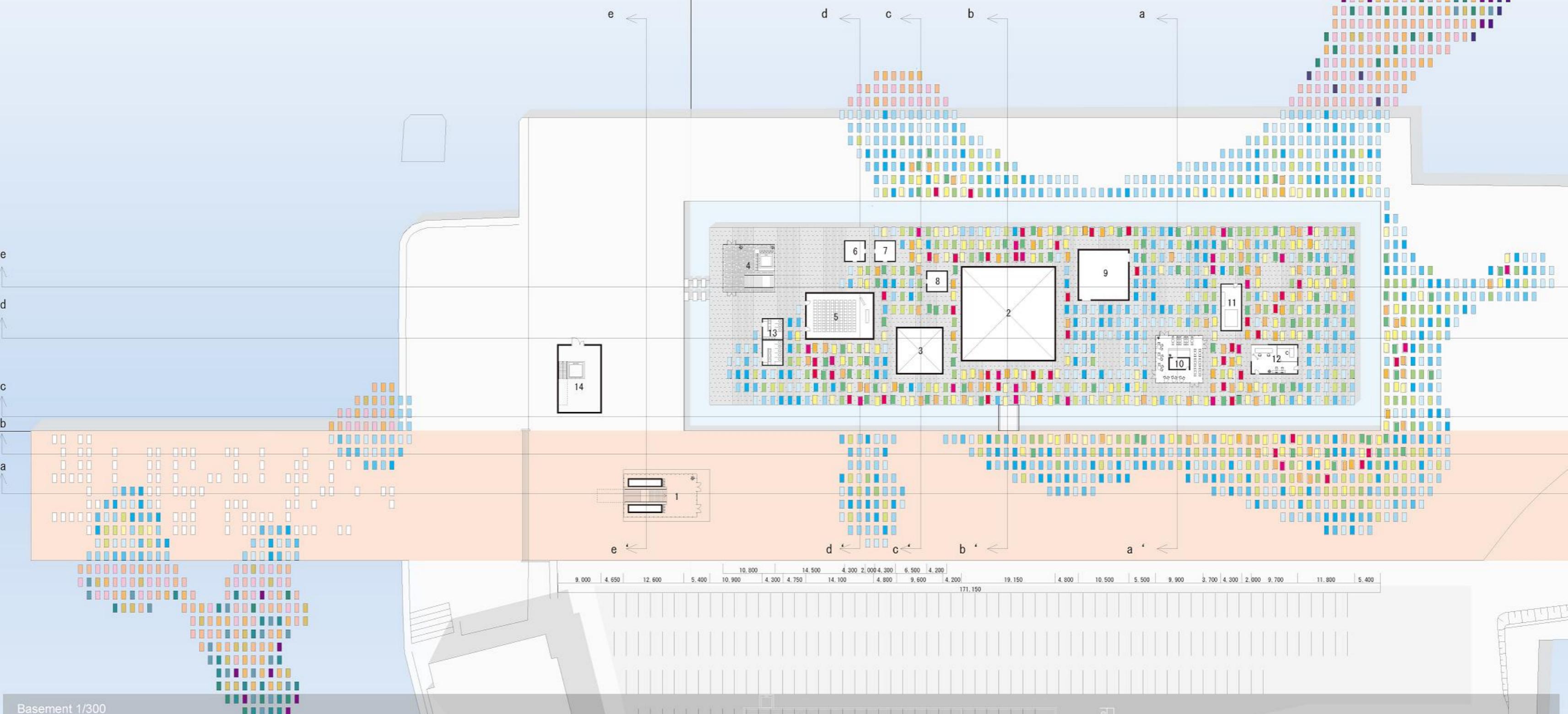
-2400 ~ -3300mm

-3600 ~ -4500mm

### 「現象」の高さ配置



Ground plan 1/300



Basement 1/300

1 MAIN ENTRANCE HALL  
2 PACKED SEA ROOM  
3 LOST SAND ROOM  
4 FOYER  
5 HALL  
6 GALLERY  
7 GALLERY  
8 GALLERY  
9 MAIN GALLERY  
10 CAFE  
11 TO PURIFY WATER  
12 INFORMATION OFFICE  
13 REST ROOM  
14 DELIVERY ENTRANCE  
15 ENTRANCE HALL  
16 ATELIER  
17 ATELIER GALLERY  
18 MUSEUM OF OSAKA PORT  
19 GALLERY  
20 GALLERY  
21 OFFICE  
22 LOADING DOCK  
23 MAIN STORAGE  
24 RECEPTION ROOM  
25 DIRECTOR'S ROOM  
26 STAFF ROOM  
27 MACHINERY ROOM  
28 STORAGE

South Elevation 1/300

